

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3474400482		
法人名	有限会社 愛神会		
事業所名	グループホーム 古都		
所在地 (電話番号)	福山市神辺町川南297-1 (電話) 084-963-7005		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成20年4月11日	評価確定日	平成20年4月21日

【情報提供票より】(20年3月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 1.72	

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	95,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	16 名	男性 2 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	86.5 歳	最低	73 歳
		最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	亀川病院・甲斐歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム古都では、利用者の方々が地域のなかでその人らしく生活することを支えるケアと、家族への支援は、3つの安心(安心・安全・快適)と和みを具体的にイメージし、これを指針として取りくまれている。運営者、管理者、全職員は、理念をより具体化させて実践するために個々の年度目標を掲げて、これをホームの玄関に掲示し、折に触れて家族関係者や来訪者に伝えられている。ホームでは、多職種の職員が協働しながら同じ目線に立ち、目標を明確にしながら利用者への支援に取りくまれており、また、運営者と職員はケアの意見の統一化を図る研修などを通じて共に積極的にいき、サービスの質の向上に努められている。このことにより、利用者及び職員は明るく、元気に満ちた笑い声などにより、ゆとりのある雰囲気

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では特に改善点はなかったが、その後の取り組みとして今以上に運営者は職員が向上心を持って働き続けるような配慮と対応に努められており、職員も生き生きとしたやりがいとゆとりのある姿が伺えた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所全体では目的や意義をよく理解し、自己評価に取りくまれており、その結果を基にサービスの質の確保と向上につなげる姿勢が伺える。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の場では議題を絞りながら、これらを明確にし、それに沿って事業所側と参加者の方々からは積極的な意見や要望が交わされており、双方向的な会議となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>常日頃から家族等や外来者に安心して頂くよう、また、意見等が十分表せるような雰囲気づくりと機会づくりに留意し、これら意見等を積極的に聴きながらそれらを運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は町内会に加入し、また、運営者自ら町内会の役員を勤めながら、また、利用者と職員が共に地域のお祭りなどの行事に出かけるなどしながら、利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義や役割を理解され、果たすべき役割を的確に反映した理念の内容となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝礼や職員会議の場などでは必ず触れ、互いに確認し合いながら日々のサービスの提供場面において、理念が反映されるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として町内会に加入し、運営者は町内会の役員を勤めている。地域の行事には出来るだけ利用者と職員が共に参加をし、また、ホームでの行事等には地域の方々が多く参加されて関わりをもっていたきながら交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者及び職員は、自己評価及び外部評価のねらいや活用方法をしっかりと理解しながら取りくまれており、その結果を事業所の質の確保に活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための機会となっている。会議では、議題に沿って参加者から質問、意見、要望を受け、質の確保を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状では所轄の市担当者との関わりは出来ていないが、運営推進会議などを通じての機会づくりを検討されており、体制も出来ている。		行政機関との関わりを十分図りながら、今以上の協働関係をつくられることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時には、詳細に現在の様子を報告し、また、行事の際の写真を見ていただいたりしている。他には、事業所のホームページや電話などでこれらの様子を詳しく知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から、家族等が職員に意見・不満・苦情等を表せるように雰囲気づくりや機会を設けながら、その意見等の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ず職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、職員交代による利用者のダメージを出来るだけ少なくするように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上にむけた育成計画を策定し、自ら講師を勤めるなど、絶えず職員のスキルアップの向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他のグループホームへの見学等を通じて、日々のサービスや職員育成につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者と家族の安心と納得を大切にしたい利用につなげるために、事前の体験入居や短い時間でもホームに遊びに来ていただいたりすることから始め、職員が自宅に出向いたりすることを繰り返しながら安定的な利用に移行している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の方々の得意分野で力を発揮してもらい、お互い様という気持ちや感謝するという関係づくりに留意している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者と職員は日頃の馴染みの関係を活かしながら、利用者一人ひとりの思い・暮らし方の希望、意向の把握に努めながら本人本位の支援に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>常日頃から利用者と家族との関わりのなかで、本人の思いや意見を聞きながら利用者の視点に立って介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等と相談しながら、利用者それぞれのかかりつけ医と話し合いや情報のやりとりを通じて、関係を築いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針を全員で話しあって支援につなげている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者と管理者は、日々の関わりの中で折に触れてプライバシーの確保と個人情報の秘密保持の徹底を図りながら意識向上に努められている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが本来持っているペースや、望んでいるペースに合わせて暮らしの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の流れは、利用者の方の希望や意志を大切にしながら、全ての利用者が力を発揮出来るように支援に努められている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居以前の生活習慣や、その日の希望や状態に合わせて柔軟な入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の方の出来ることや趣味、希望を汲み取り相談しながら、職員と一緒にホーム内外の清掃を行ったり、このほか菜園の手入れや洗濯等をお願いすることによって、気晴らしの支援に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状態や本人の習慣、希望、季節や地域のその時々状況に応じて、利用者一人ひとりが外出を楽しめる支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りと連携プレーがスムーズに出来ているため、日中は鍵をかけない支援を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練や消火器、避難路などの設備点検を行い、また、運営推進会議などを通じて地域の協力もお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが一日全体で、栄養や飲水量がどの程度とれているのか、職員全員が常に意識しながら関わっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、五感への刺激を全職員が日常的に注意を払いながら、また、季節感を考慮し意識的に取り入れながら居心地のよい暮らしの場となつている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた馴染みの物を持ってきていただくなどして、その人らしく過ごせる部屋となっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム古都

評価年月日 平成20年 3月 5日

記入年月日 平成20年 3月 5日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 施設長 氏名 園生 堅司

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	天気の良い日は周辺の散歩を通して地域の方との関わりをもつ。散歩中のごみ拾い。 地域行事に参加し、施設行事にも参加していただく。		町内会の行事参加を増やし、地域の方々にも平素より出入りしていただける関係をもつ。 (地域清掃、ゲートボール、老人会)
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝礼や職場会議で実施状況、理解、取り組みなどを話し合う。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議において状況の説明。 家族の面会時の会話に取り入れる。 見えやすいところに理念を掲示する。		地域の方と接点のあるごとに説明を加えたり介護教室を開く。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域行事の事前に挨拶に行く。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	行事に参加している。 当施設行事を手伝っていただいている。		老人会、町内会へ参加すること。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。			介護教室などの開催 高齢者の立ち寄り所として
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年間のケア目標を掲げそれに向けて同じ方向を見つめるケアとなるよう努力していく。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。			
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	言葉、態度、行動、表情をとおして職員間で互いに注意しあったり利用者の対応を交代することで気分を抑制する。		勉強会を開いたり講習を受ける。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>			
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>苦情箱（意見箱）の設置や本人意見、家族意見を運営者へ提供する。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>ホームページ開設や都度電話連絡を行なう。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>			
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>施設への要望書の配布 行事などの計画書の作成</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>			

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>			
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内研修を開催し職員自らも講師の立場を持つことによりスキルアップをはかる</p>		<p>必要に応じて外部研修受講</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>			
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>			
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>年間ケア目標を作成し実践を向け結果をまとめ次の方向性へ生かす</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>インテークに伺いそれまでの生活ぶりに添った援助となるよう個別のニーズに合わせる。 利用までに充分納得いただけることを確認する。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人と家族の意見調整を行い方向性を統一する。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	優先的な援助をはっきりと家族や本人が理解されてサービス選択をしていただけるようアドバイスを行う。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入所や自宅訪問、施設訪問をして顔や雰囲気にならなかに馴染んでもらう。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの生活歴の中から一番大切にしていたものや、常識、伝統、経験などをとおして次世代である職員に伝授していく。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と職員が同じ立場にいて日常的には職員を家族とみなしてくれるような関係支援をする。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	身体支援を職員が主に行い心のケアを職員と家族が担うことによってストレス緩和をはかり本人の必要に応じて家族の出番の演出をする。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人から馴染みの方に連絡が取れるよう通信の援助と外出援助で継続できるよう配慮する。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>気の合う仲間をつくれるよう席位置の配慮やレクリエーションなどをとおして協力しあえる関係をつくっていく。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退居後に訪問の誘いや電話の取次ぎなどを行なう。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>個別に話を聴き、本人の意見および素振りから望んでいることを察知する。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>食事形態、嗜好、入浴形態、排泄状況、自室の状況、外出状況を考慮した受け入れを心掛ける。</p>		<p>個々の生活スタイルに応じた援助に近づけていく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>一般浴の継続、和室で過ごす等でADL維持と家事や作業で自分の存在を顕わしていただく。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスを行い意見交換をする。 日頃より本人、家族の意見を聞いておく。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	実情に合わない(心身の様子の変化)事態が起こると、その都度速やかに緊急カンファレンスを行なうとともに家族とも話し合う。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	実施記録ノートと個別ファイルに支援経過を記録し全職員に徹するように申し送りノートを活用する。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の訪問やボランティアの活動で生活を盛り上げる。 近くの文化会館を利用して講演、コンサートに参加したり図書館利用をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	通院時にストレッチャー送迎を事業者に請負ってもらう。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院へ同行、往診、緊急受け入れ、入院、本人の状況に応じて対応する。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	家族と連絡調整しながら受診の打ち合わせをしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の看護職員に受診時、入院時に相談しながら医療面を支えている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療連携を結んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>終末期に向けて協力病院の主治医、CWと相談して最期のあり方を決定する。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>訪問看護や在宅医療などDrと本人、家族と共に支援体制をとりながら不可なことの説明をしっかりと行なう。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>インテークを重ねたり通信によって細かい情報提供を行い本人の動揺や不審な行動につながらないように心掛ける。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報保護の観点から日頃から互いに注意しあって本人に迷惑がかからないように気をつけている。</p>		<p>個人情報取り扱いの研修を施設内で行なう。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>レクリエーションを通して本人の気持ちが出せたり自己決定に結びつける遊びも日頃より取り入れる。 十分な説明の後本人の意思決定につなげる。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>無理強いせずゆっくり起きて何もせずの一日を大事に捉え入浴も希望に添える言葉かけにもっていく。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	好みのスタイルに出張美容師に対応してもらっている。		美容院へ行ってのおしゃれに援助を増やしていく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	限られた利用者に特定せずできることをできるだけ関わってもらう。		利用者、職員が同じものを食べる機会を増やす。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	家族依頼、本人同行での買い物によって飲み物、おやつなどを確保、提供している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄一覧表作成により本人の排尿、排便パターンに添ってトイレ誘導を行なう。 下剤の使用を続けている人は排便コントロールとして個人に応じた薬を適時服薬管理している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	概ね午後に希望を聞いて入浴に誘う。長浴は体調に応じて行なう。 適宜、入浴剤などの使用も行い好みの湯温を取り入れる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入眠時刻は本人希望により入眠前の習慣(テレビ、本、日記)を取り入れる。 昼寝を好まれる方は応じて居室で休んでもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	庭にある畑で畑仕事、内外の掃除、洗濯に関わる仕事、食事の準備などで役割をそれぞれがもっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金を持っている方には対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、図書館や通院などの支援		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族の協力を得て楽しみのもてる外出や役所、金融機関、コンサートホールなどへ出かける。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じて電話利用、手紙の出し入れの援助をする。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	お茶の接待や談話する場所を幾つも用意し必要なら話の中に入っていく。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>車椅子より理解不足で不穏時に転落の危険があると判断した場合のみ家族の了解をいただいているが見守りのできる範囲で工夫して拘束しない。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>夜間帯以外は鍵はしない。</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>夜間の定期見廻り及び体調変化に応じて様子観察、申し送りなどで全職員に徹底し対応を同じくするよう努めている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>席位置を考慮したりケースにカーテンを施すなど工夫している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>滑り止めの設置、食事時の姿勢、とろみを加えた飲み物、個別、時間別の分薬、随時の利用者の存在確認、緊急マニュアル作成による実施訓練をおこなう。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>年二回の防災訓練時に体調急変の訓練や講習を行う。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議などで協力の働きかけをしている。		職員の教育を行なう
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	9人の集団生活であり見守りしつつも職員が目が届かず転倒、誤嚥などによる事故の急速対応と家族連絡および感染症における共通症状の出現の場合の居室隔離。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化は目視、バイタル本人の訴えにより把握し当日出勤者による対応カンファレンスを行なう。場合によっては非出勤者に連絡をし、今後の対応を決める。必要に応じ家族にも連絡する。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人毎に服薬一覧表の作成をし個別に配薬し服用後は職員の確認印をしている。 投薬時の薬情報を利用し状態によっては体調変化の気付き表を使用している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	日頃より排泄の重要性を説き職員も理解して体操、散歩、腹部マッサージや牛乳、食物繊維の多いものを摂取するなど工夫する。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後30分以内に自立、半自立、全介助で本人の能力に応じ歯磨き、うがいを行なう。歯周病予防誤嚥予防のため口腔ケア指導を定期的に利用する。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食事をチャート記録、一日水分摂取量を前利用者一覧表にして個別目標量を把握できる仕組みをする。 個々の好みに応じた飲み物で確保する。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	時刻を決めてトイレの清掃、消毒のほか手すりや手の触れるところ、随時の各消毒を行ない、感染症予防研修を施設内で行なう		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の保冷管理、消費期限を守り冷蔵庫や厨房まわりの清掃を毎日行なう。熱消毒、薬消毒、調理したものの早めの摂取(2h以内)、厨房の室温、湿度にも配慮する。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にスロープ設置ほとんどの段差をなくし開口部を大きく設けて歩行以外でも出入りをやすくしてあり照明を常に点灯する。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関に生花、鉢植えを用意し足元の清掃、照明にも気配りし、BGM、ダウンライト、カーテン、換気扇、エアコン設置、季節感ある飾り物で工夫する。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	大型ソファ3台、個別ソファ、テーブルのほかにリビングに大型テーブル、椅子が用意してある。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個別の慣れ親しんだ大小の道具、仏具の受け入れで個別性を重要視している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気を各室に設け窓はペアガラスであり、個々の要望や体調に合わせて随時調整し集合するリビングでは個々に衣類調整し±5の外気差に努める。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差を無くし転倒しないよう配慮。洗面、トイレのスペース考慮、手すりの配置、車椅子での移動可、可動式ベッド、ストレッチ式入浴椅子で生活しやすくしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	言葉のかけ方を利用者の状態に応じて工夫、対応できないことを介助し時間がかかってもできるまで待つ、さりげなく区別のため記名したり置き場の設定を促す。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	敷地内に花畑、野菜畑、芝生庭、ベンチの設置、花木や鉢など配置し外でも楽しめる工夫がしてある。		